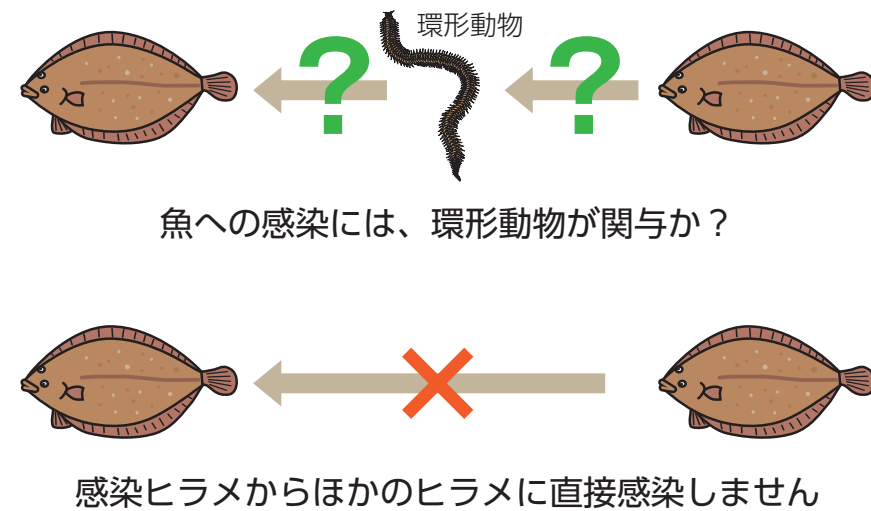


ヒラメの種苗生産・養殖施設でのクドアの感染防除策を開発

近年、養殖ヒラメなどの生食で原因不明の食中毒が発生しています。その食中毒の一部は、クドア・セプテンpunkタータ（クドア）という寄生虫が引き起こしていることが明らかになりました。

その防止のため、水産総合研究センターが中心となって、感染したヒラメを検出する検査法や感染防除技術の開発を進めています。これまでに、クドアに感染したヒラメを簡単に見つけるための簡易検査法や給水処理による感染防除技術などを開発しています。



感染状況

養殖ヒラメの感染は、限られた海域の種苗生産場や養殖場で感染していることが分かりました。

ヒラメは、クドアに夏を中心に感染すること、感染したヒラメからほかのヒラメに直接感染する可能性がほとんどないことも分かってきました。

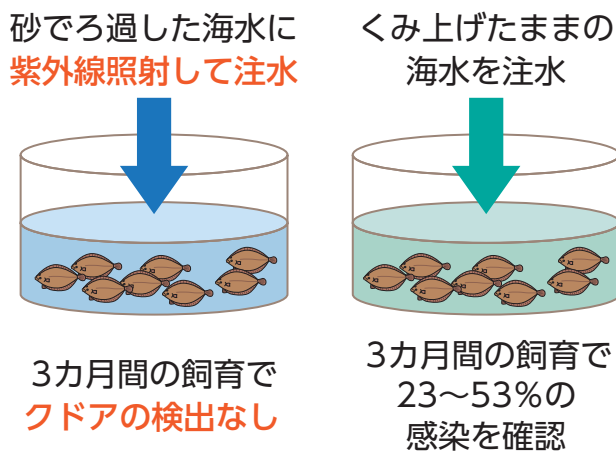
検査法の開発

クドアの遺伝子を使った検査や、顕微鏡を使った簡易検査を開発しました。

これらの検査法で感染したヒラメが確認できるので、養殖場への感染した稚魚の導入防止や養殖場からの感染魚の出荷防止に役立っています。

防除技術の開発

養殖施設で、給水の際、砂でろ過した後に紫外線を照射することでクドアの感染防除に成功しました。紫外線の照射量は46ミリジュール/平方センチ*であれば有効であることも確認しています。これらの成果により、クドアによる食中毒の発生を減らすことに貢献しています。



*ジュール/平方センチ：1平方センチ当たりを受ける紫外線のエネルギーの強さを積算した値を示す単位。ヒトが1日に浴びる紫外線量の平均は約40ミリジュール/平方センチといわれています。

安心して貝が食べられるように ～下痢性貝毒検査への貢献～

毒をつくり出すプランクトンを貝がたくさん食べることで、毒が貝に蓄積されます。そのような貝をヒトが食べると、下痢などを起こします。これが下痢性貝毒です。

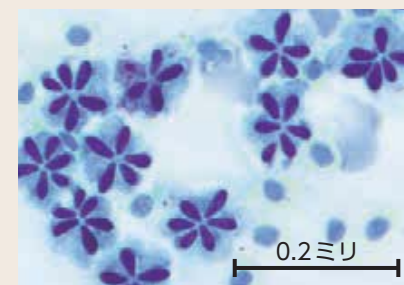
水産総合研究センターは、安心して貝を食べることができるよう、下痢性貝毒を検査するための分析方法の確立や、分析のための基準となる標準物質の製造にも貢献しています。

肝臓とすい臓の機能をあわせもつ中腸線に毒がたまりやす



クドア・セプテンpunkタータって？

クドア・セプテンpunkタータ (*Kudoa septempunctata*) は、魚の筋肉に寄生する粘液胞子虫の一種です。クドアの魚への感染には、ゴカイなどの環形動物が関わっていると考えられています。クドアは下痢症状などを引き起こしますが、そのメカニズムはまだ解明されていません。写真は、メ



チレンブルー染色による簡易顕微鏡検査法で確認されたクドア。

※この成果は、農林水産省のレギュラトリーサイエンス新技術開発事業と新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業によるものです